

○● 学習の進め方(1) ～ ALL IN ONE 方式

本書の特徴である「オール・イン・ワン方式」で、単語、文法の習得と、リスニング、スピーキング、ライティングの訓練を一度に行う場合は次の方法が効果的です。

Step 1 英文のディクテーション (リスニング力をつける)

テキストを見ずに付属 CD の例文音声聞いて英文をノートに書き取ります。文の意味を考えながら聞いてください。一度で書き取れない場合は繰り返し聞いてもかまいません。綴りが不確かな場合は推測で書き、また何度聞いても聞き取れない部分は空所にしておきます。(付属 CD の「ディクテーション・テスト用紙」(PDF) を印刷して解答用紙として使うと便利です)。1 レッソンの例文の書き取りが終わったら、書き取った例文を見直して問題点を明確にしておきます。次にテキストの英文を見て聞き取れなかった部分や間違った部分を確認します。



Step 2 単語欄での語義と発音の確認 (単語力をつける)

書き取れなかった部分はたいてい「知らない単語や表現」か「発音がわからない [不確かな] 単語」です。単語欄 (DICTIONARY) で「発音」と「意味」を確認してください。次に例文の日本語訳を見て文全体の意味を確認します。

* 発音記号が読めない方は巻末の参考資料 R1 (発音と発音記号) をご覧ください。



Step 3 文法解説の熟読 (文法力と読解力をつける)

各例文には文法 (= 文の作り方に関する規則) と語法 (= 単語の使い方に関する規則) のポイントが含まれています。解説を熟読して文法 [語法] 知識の理解に努めてください。「ディクテーションは正確に行えたのに意味がよくわからなかった」という場合はしばしば文法や語法に問題があります。例文の構造や語句の修飾関係を正確に把握してください。



Step 4 英文の音読 (スピーキング力をつける)

CD の音声に合わせて例文を音読します。自己流で発音するのではなく、ネイティブのナレーションをそっくり真似てください。ナレーションと同じ速度で音読できるようになるまで何度も繰り返します。余裕がでてきたら今度は文の意味を思い浮かべながら音読を繰り返してください。



Step 5 英文の暗唱テスト (ライティング力をつける)

音読練習を終えたら、日本語訳を見て英文がスラスラ言えるかテストします。つまずいた箇所はテキストで確認し、正確に言えるようになるまで音読とテストを繰り返します。ライティングの学習が必要な場合は、英文をノートに書いて単語の綴りや句読点などの細かな点も確認してください。

* 付属 CD に収納されている「ライティング・テスト用紙」(PDF)を使うと便利です。

**Step 6** 復習 (知識を定着させる)

【Step5】で1レッスンの学習は終了ですが、学習内容を記憶に定着させるために定期的に復習(4回以上)をしてください。復習は次の方法で行います。

① 例文の日本語訳を見て即座に英文が出てくるか、口頭もしくは筆記のテストを行います。間違った例文は「苦手な例文」としてノートに書き留め、音読と口頭[筆記]テストを繰り返して暗記します。「苦手な例文」の音声だけを録音して空き時間に繰り返し聞くようにすると効果的です。

② 本文の文法[語法]解説を読み直し、忘れていた箇所やあやふやな箇所に鉛筆やマーカーで印をつけます。次に復習をする際にはここでマークをつけた部分を重点的に読みます。

* 上記①と②は行う順番を逆にしてもかまいません。

●● 学習の進め方(2) ～ 個別の学習書として

📖 「例文形式の単語集」として使用する場合

例文の中に含まれる単語・熟語・会話表現を単語欄(DICTIONARY)で確認し、本文の説明をよく読んで、例文(英文)と日本語訳が結びつくようにします。次に付属のCDで例文の音声を繰り返し聞き、自分でも音読して、例文を暗記します。この方法で英文中に含まれる語いは全て身につけることができます。単語テストをする場合は、単語欄の英単語・熟語・会話表現を見えないようにしておき、日本語訳を見て英語が言えるかどうかテストします。

📖 「文法参考書」として使用する場合

テキストの解説をよく読み、暗記が必要な項目はきちんと覚えます。必要に応じて巻末の参考資料にも目を通してください。例文の暗記は特に必要ありません。